

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はやと太陽の子		
○保護者評価実施期間	令和8年1月14日～令和8年1月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日～令和8年1月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価作成日	令和7年2月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取り組み等	さらに充実を図るための取り組み等
1	「非常時の対応」に関する取り組みが幅広い。	<ul style="list-style-type: none"> 年間研修計画に、業務継続計画(BCP)や安全計画、虐待・身体拘束等についての研修を入れ、社労士を講師として招き、全スタッフで研修や訓練を受けている。 消防や警察と連携し、避難訓練や防犯訓練に定期的に取り組んでいる。また、利用児に対しても定期的に訓練や学習会を行い、自衛の意識を高められるようにしている。 利用児全員に対して、発作や服薬、既往歴、アレルギー等についてのアンケートをとり、全スタッフで情報共有している。 発作や嘔吐の対応のための携行品を常備し、活動中は身の回りに置いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアル等を保護者様へ周知し、さらに非常時における協力体制作りへの理解と協力を得られるようにする。 御家庭からの情報提供が速やかになされ、支援に配慮できるよう、必要書類の期限内提出の徹底をお願いする。 非常災害食や備蓄品の検討と御家庭への協力依頼を進める。
2	活動プログラムの立案等をチームで行っていることにより、プログラム内容を工夫できている。	<ul style="list-style-type: none"> 支援前には必ず打ち合わせを行い、活動の目的や担当、配慮事項等を共通理解して、どのお子様のことに対しても情報共有してから支援に臨んでいる。 「4つの基本活動」「5領域」を念頭に、個別や集団を組 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング会議等で得られたお子様の情報を活動に生かしていく。 余暇の過ごし方や家庭での過ごし方への参考になるような活動の提案をしていく。

		<p>み合わせて、バリエーションを増やす工夫をしながら活動計画を立てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お子様から発信される「やってみたい活動」や「行ってみたい場所」、また、保護者様がお子様に「経験させてみたいこと」を取り入れながら活動計画を立てている。 ・ お子様自己選択・自己決定できたり、自分たちでプログラムを決定したりする機会を設け、自発性や自己関与感を高めるようにしている。 ・ 性教育や防災学習、防犯学習に定期的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に必要なスキルやコミュニケーションを身に付けられるよう、心和の郷と連携しながら就労体験に取り組んでいく。 ・ 安全・安心・健康に気を付けながら生活できるよう、衛生や性、防災や防犯などについての学習に取り組んでいく。 ・ 御家庭でも協力して取り組んでいただけるよう、資料提供や通信でのお知らせなど、活動の情報発信・情報共有に努めていく。
3	<p>お子様の過ごす生活空間が過ごしやすくなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子様混乱なく、自分で動くことができるよう、構造化したり、物の配置位置を決めたり、手順表を掲示したりしている。 ・ お子様リラックスできる過ごし方（読書・制作・PC・午睡等）に集中できるよう、部屋を分けたり、机の配置を工夫したり、スタッフルームが使えるようにしたりしている。 ・ 使用したおもちゃやかご、机、布団などの消毒をお子様と一緒にいき、身の回りを清潔に保つことへの意識を高めている。 ・ 読書が好きなお子様のために定期的に県立図書館での団体貸し出し制度（50冊まで）を利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で考えて動くことができるよう、個別に対応した表示方法を考えていく。 ・ お子様の一人の時間（リラックスできる時間）を安心して過ごしていただくために、スタッフ配置等を工夫して、より安心できる空間作りをしていく。 ・ 家庭での手伝いの役割や親元を離れた時の生活を意識しながら、身の回りを整理整頓したり、掃除したりすることに繰り返し取り組んでいく。 ・ お子様健康に生活することや病気の予防についての意識を高められるよう、換気や消毒、洗濯、掃除等に繰り返し取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
1	<p>保護者様やきょうだい児に対する支援が十分でない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画に親子レクリエーション等を計画しているが、環境が十分でなかったり（農作物の生育不良）、日々の支援で時間が足りなかったりして、計画を立てることが難しい。 ・ 親子レクリエーションを計画しても、参加者が少なく、関心をもっていただくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早めの立案とお知らせをする。 ・ 御家族にとって魅力的なレクリエーション内容となるよう、保護者様のニーズを知る。 ・ 参加しやすい時間や費用等で立案する。 ・ きょうだい児と保護者様が活動参加しやすいよう、お

		<ul style="list-style-type: none"> ・ きょうだい児に対する活動の周知が徹底できていない。 	<p>預かり体制を整える。</p>
2	関係機関との連携が十分でない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校との連携については、担任とは相談支援事業所を中心に行う担当者会議でお子様個人についてのコミュニケーションをとる機会があるが、学校全体として、一方的な連絡やお願いが多いと感じる（事業所側の都合を考慮されず）。また、下校時の引き継ぎも担任が来なかったり、「変わりないです。」の一言で終わったりするため、その日の様子が分からないことがある。 ・ 以前は、学校と事業所との連携会議のようなものがあったが、学校の業務の都合でなくなり、意見交換する場がなくなった。 ・ 相談支援事業からの計画書の配布が遅れ、個別支援計画書の作成が滞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任や相談支援事業所とは、積極的にコミュニケーションをとり、意見を伝えやすい良好な関係性構築に努める。また、課題に対する助言を求めて、意識の共有を図る。 ・ 学校の対応を変えることは難しいと感じる。担任だけでなく、主事や教頭と相談する等、日頃からのコミュニケーションに努めたい。 ・ 夏休みの情報交換会には、保護者様からも担任へ協力依頼をしてもらい、太陽の子への関心をもってもらえるようにする。
3	保護者向けやスタッフ向けの研修を増やすことが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子様の支援や御家族のニーズを優先すると、日々の業務（お子様を中心に据えた業務；支援プログラムの立案や打ち合わせ、振り返り、記録、環境設定、教材作成、預かり時間等）に追われて、スタッフや保護者様に関わる時間の確保（研修内容の検討や準備）が難しい。 ・ スタッフへの業務過多を感じるため、積極的に推し進めることが難しい。スタッフのストレスから、健康被害や虐待につながることはあってはならないため、実施のための優先順位が下がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフ個人の業務過多・処理能力では、スタッフによる研修の計画・実施が難しいため、外部講師を召喚できる体制を作る。 ・ 外部研修の情報収集に努め、外部研修に参加する機会を増やす。 ・ 限られた時間内で終わるような、効率性や内容を考えて実施する。